【外皮性能】勝手口ドアの分類

文書管理番号：1282-01

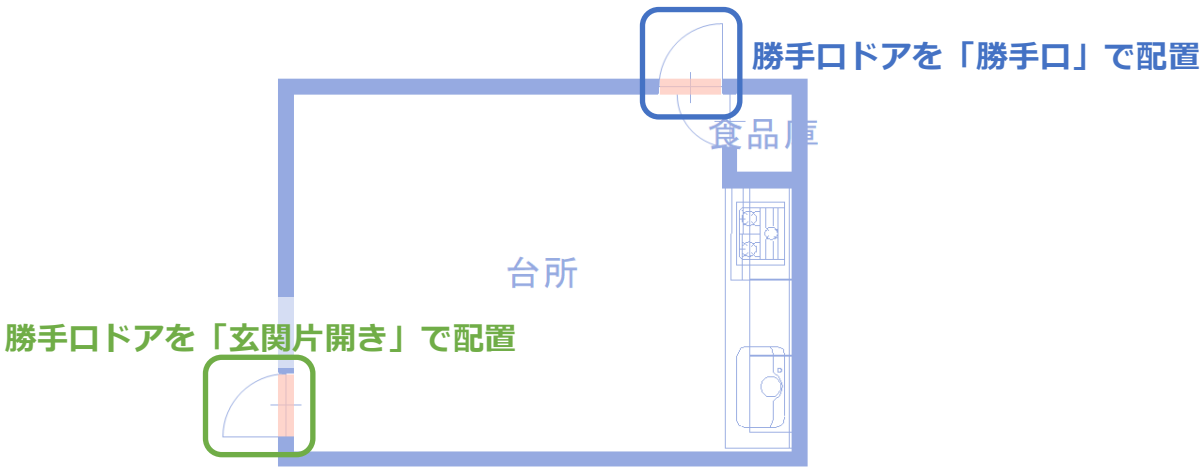
Q.質 問

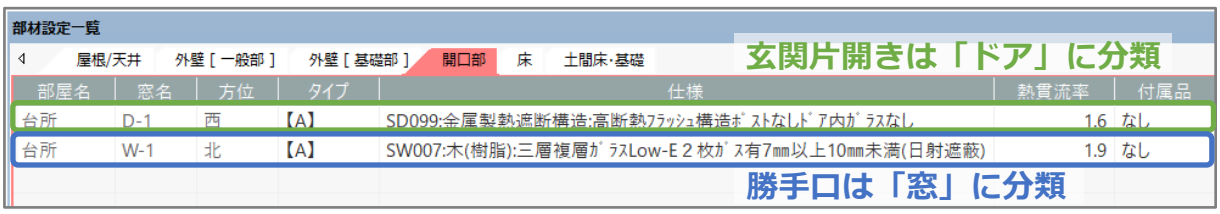
勝手口ドアを配置しているが、外皮性能計算では「ドア」ではなく「窓」として認識されてしまう。
「ドア」として計算できないか？
外皮性能計算で「ドア」として計算したい開口部が「窓」として計算されてしまう。

A.回 答

外皮性能計算ではプラン図で配置する建具の種類により「窓（大部分が透明材料で構成されている開口部）」と「ドア（大部分が不透明材料で構成されている開口部）」に分類します。
具体的には、玄関建具は「ドア」、それ以外の建具はガラス部分が多く日射熱取得率が高い建具とみなし、「窓」として分類します。

勝手口ドアを、「ドア」として計算したい場合は、(プラン図)で (建具)の「玄関建具」を配置してください。
「玄関建具」の配置方法については、A's（エース）のマニュアルやヘルプをご確認ください。





【参考】外皮性能計算における「窓」と「ドア」の違い

●窓　：大部分が透明材料で構成されている開口部（窓名は W-＊と表示）
日射熱取得率は、ガラス仕様、日射遮蔽物、取得日射熱補正係数などを考慮して計算します。
取得日射熱補正係数は、メニューバー「設定」＞「計算条件」より「定数を用いる方法」「簡易的に算出する方法」「日除けの効果係数と斜入射特性を用いる方法」から選択でき、選択した計算方法で算出した補正係数で日射熱取得率を計算します。

●ドア：大部分が不透明材料で構成されている開口部（窓名は D-＊と表示）
日射熱取得率は外壁、屋根、天井の部位と同様に計算します。
[日射熱取得率] = [日除けの効果係数] × 0.034（固定値）× [熱貫流率]

窓名 W-＊、D-＊の「＊」には自動で振られた数値が入ります。（例　窓：W-1、W-2…）

【参考】開口仕様が異なる場合

(外皮性能計算)の(部材一括変更)の「断熱仕様②」では、「【A】建具とガラスの組み合わせによる設定」、「【B】試験値・計算値による設定」ともに「ドア」の開口仕様は 1 種類のみ設定できます。

「勝手口ドア」と「玄関ドア」の開口仕様が異なる場合は、部材設定一覧で個別に仕様を変更してください。

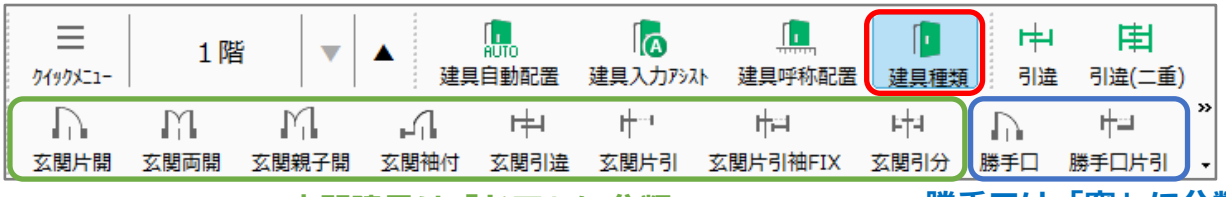
操作方法については詳しくはこちらをご覧ください。

[1143]【外皮性能】一部異なる開口仕様を個別設定する方法

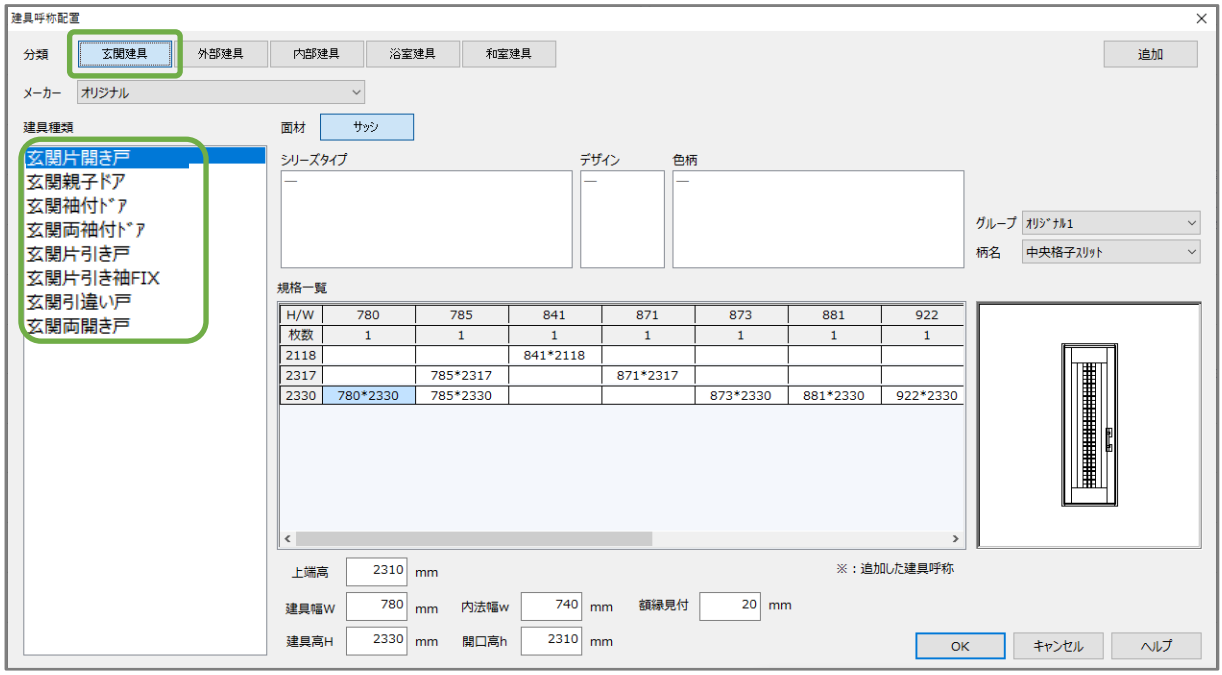
参考：「玄関建具」と「勝手口ドア」

- **プラン図の建具種類**

(プラン図)の (建具)の (建具種類)から(勝手口)や(勝手口片引き)を配置した場合、「窓」に分類されます。「玄関建具」を配置すると「ドア」に分類されます。



玄関建具は「ドア」に分類　　**勝手口は「窓」に分類**

- **プラン図の建具呼称配置**

(プラン図)の(建具)の(建具呼称配置)では、「外部建具」の建具種類に勝手口を用意しています。「外部建具」の勝手口を配置すると「窓」に分類され、「玄関建具」を配置すると「ドア」に分類されます。